

会員の広場



カワセミに会いに行こう

高田 英生（東京）

新たな感染症、COVID-19に見舞われ一年以上経過した。イベントは中止やオンライン開催になり、生活は巣ごもり状態となった。小生も交通機関を利用しての外出は激減し、ディスプレイと向き合うか庭いじりに関わる時間が多くなった。駐車場周りに作ったボーダーガーデンに、昨夏、種から育てたジニア（ヒヤクニチソウ）にツマグロヒヨウモンが頻繁に訪れてくれた。この春一番

に訪れてくれたのもツマグロヒヨウモンであった。菜の花は2月から咲き始めたが、モンシロチョウが訪れてくれたのは3月、後半にはつがいも。4月中旬には、アオスジアゲハ、ミスジチョウ、次いでクロアゲハが訪れてくれた。これから暖くなる中、蝶の訪れてくれる草花をジニア、菜の花のほかにも育てようかと思っている。

外出が制約される中、人込みを避けつつぶらっと出かけられるところといえば、公園やミュージアムなどだが、休園、休館や予約制となる場所が多くなり、足が遠のいてしまった。

そんな中、この3月、小石川植物園が開園中で併せて写真展「小石川植物園の野鳥」を開催中ということで訪問した。野鳥展案内の扉は、飛ぶ宝石といわれる翡翠（カワセミ）である。この何年か、安房勝山の佐久間川、東京港野鳥公園で見ることができた。戦前には都内の公園などで普通に見ることができたというが、1970年頃には多摩川



の上流に行かないと見ることができなくなったそう。その後、都心部の水辺などでも再び見られるようになったとのこと。都下の日野、町田、小金井でも市のシンボル鳥として定められてもいる。植物園の桜の満開の時期と重なったが、花曇りでもあり写真撮影に好スポットの順番を待つ人が多少居た程度で、ソメイヨシノの圃場の広さからすれば疎らといっても良いくらいである。ツツジも咲き始めたものもあった。我が家のツツジはツボミがちらほらであるが、いずれにしても例年より早い。今年の桜の開花宣言は3月14日と例年より12日早く、1953年統計開始以来最速であった。そういえば、ツマグロヒヨウモンは1980年代までは近畿地方以西の蝶であったとのことであるが、漸次北上して今は関東北部でも定着しているようである。

今回はカワセミに出会えなかったので、日を改めて来ようと思う。（2021年4月記す。）